

# 留学レポート

人文社会科学部 文化創生課程 1年  
留学先：オタゴ大学（ニュージーランド）

## ニュージーランド

自然に囲まれた暮らしで広いイメージがあるニュージーランドですが、市街地もありますし住宅街はとても大きく、丘の頂上付近にまで広がっています。しかしすぐ隣には自然。ちょっとした森林や泳げる川があり、気分転換に最適です。私はニュージーランド南島のネルソンと留学先の大学があるダニーデンの2つの街へ訪れましたが、どちらも魅力的な街で、日本を離れて住んでしまいたい！と思うほどでした。

Signal Hill からの景色（昼・夕方・夜）

ダニーデンの中心地帯が一望できる

## おすすめの観光の仕方

私は初め、南島のネルソンへ友人に会いに数日滞在し、その後オタゴ大学のあるダニーデンへ行きました。観光といっても、高いお金を払って旅行へ行ったりモノを買ったりすることはそこまでせず、徒歩でも行けるような川や海辺、丘の頂上や町の中を散策していました。

観光をしている中で格別私が感銘を受けたのが、丘から見る景色です。ダニーデンは特に急行の高い土地に位置しており、多くの家が丘の上にあります。そのため、少し上って振り返ると、海に面した町や遠くにある広い農地がはっきりと見えます。—遠くの野原の中に白い点がたくさん見えるのですが、それは羊。家に帰るのに汗をかくことになりませんが、本当に景色が素晴らしいので疲労感も忘れてしまいました。

お金をかけて観光地へ行くのも素晴らしい景色がみられると思いますが、丘を登って労力をかけていくのもまた良い思い出になります。

## 学習について

留学前、英語を「勉強する」ということに嫌気がさしていたこともあり、机に向かって勉強をするということはあまりしていませんでした。その代わりに英語がコミュニケーションのための手段となっている国へ行くのだからと考え、聴く力・話す力を伸ばすように心がけていました。しかし1か月ニュージーランドで生活してみると、やはり語彙を知らないと自分の考えが伝わらない。そしていつも悩んでいたのが、相手の言っていることは何となくわかるが、詳しい内容がわからない。面白いだろう話に素直に笑えないことが多く、辛くなることが多々ありました。日本にいれば日常的にそこまで気にならないことですが、海外で暮らしたいという願望があることや、他の文化圏の方との交流の楽しさを知ってしまうと、この問題は超えるべき壁となりました。

私が1か月で学んだことは、英語を使って生きるという姿勢をもって暮らすということです。言語を使用するうえで当たり前のことですが、英語は勉強するものという価値観が自分の中にこびりついていて気づかせてくれました。テストのための英語は役に立たないと言われている今日の日本教育ですが、英語を話す基盤を文法や単語の知識で作る、それを人との会話で使う。そうすれば英語で生きているとも言えますし、勉強するモチベーションにもなり得ます。

また語学学校の IELTS のクラスでは、ニュージーランドに移住してきた学生が多くいたため、先生の話や先生の話を聞くぞ、英語を学ぶぞという心意気があり、毎日ドキドキでした。積極的に質問することはもちろん、当てられたときに余分に英語を話すようにしていて、本当に見習わなければならないと思いました。フランスやブラジルなど英語に近い言語を話す人はレベルが高い。海外にいるのに日本語だけ話す日本人学生もいる中で、自分の能力を比べて一喜一憂するのは心の無駄使いだと感じました。学ぶことがたくさん、本当に最高の1か月でした。

